

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02025

研究課題名(和文) 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究

研究課題名(英文) Interdisciplinary studies on modern Museum founding antiquarians network

研究代表者

内川 隆志(Uchikawa, Takashi)

國學院大學・研究開発推進機構・教授

研究者番号：80176677

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の核となる3つの中心的研究の成果は以下のとおりである。「物産会」研究プロジェクトでは、分担研究者の三浦泰之を中心に主に文献調査を実施し、その成果については「近世後期の尾張名古屋物産会について - 近代日本の「博物館」前史の一断面」として、報告書に発表した。「好古家蒐集古物資料の調査」研究プロジェクトでは、静嘉堂文庫や岸武香関係資料調査等を実施し、その成果を報告書に発表した。「シーボルト父子蒐集古物調査研究プロジェクト」では、ライデン国立民族学博物館所蔵のF.f.v.シーボルト蒐集日本考古学資料、大英博物館収蔵のH.v.シーボルト蒐集日本考古学関連資料調査成果を報告書として刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

前近代から引き継がれてきた文化財保護思想は、近代初期において博物館制度や文化財保護制度として定着するが、その実務を担った政府担当者を支えた数多の好古家の活動および功績を明らかにすることができた。具体的には、松浦武四郎や柏木貨一郎、H.v.シーボルトといった政府の文化財行政に近い好古家達の動向と、彼らを取り巻く市井にあって活動する好古家の研究を行い、その実像に迫ったのである。本研究によって、彼らが広範なネットワークを有してモノや情報を交換し、今日につながる広い意味での人文科学の基礎とも言える世界観を構築していったことが明らかにできたのである。

研究成果の概要(英文)：The results of the three core studies that are at the center of this project are as follows. (1) In the "Bussankai" research project, a review of the literature was conducted mainly by Yasuyuki Miura, a co-investigator, and the results were written up in "About the Owari Nagoya Bussankai in the late modern period." (2) In the "Investigation of antiquarians materials collection" research project, we conducted a survey of materials related to the Seikadobunko Library and Takeka Negishi, and presented the results in a report. (3) In the "F.f.v. Siebold and H.v. Siebold Collection Antique Research Project", the results of our study of the F.f.v. Siebold Collection Japanese archeological materials in the Leiden National Museum of Ethnology and the H.v. Siebold Collection Japanese archeological materials in the British Museum were published as a report.

研究分野：博物館学

キーワード：物産会 好古家 好古家ネットワーク 文化財保護制度 松浦武四郎 H.v.シーボルト ライデン国立民族学博物館 大英博物館

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

近代以降の「博物館」の前身として、「モノ」を展覧する場として近世後期の「物産会」「薬品会」などがあった事は良く知られている。しかし、その「物産会」には、どのようなものが出品されていたのか、主催者以外に出品者としてどのような人物が関わっていたのか、出品者間にどのようなネットワークが築かれていたのか、など、「物産会」そのものをめぐる研究は、ほとんど深められていなかった。一方、近代博物館の成立に関する先行研究では、『東京国立博物館百年史』同資料編を底本として多くの著作、論考が知られるものの、中央行政を支えた市井の好古家達についての詳細な研究は極めて少ない。鈴木廣之の著作『好古家たちの19世紀』などは、数少ない優れた論考の一つであるが、好古家達のネットワーク形成と彼らが蒐集し、出品した具体的なモノについて詳細に考証するには至っていない。研究代表者は該期の著名な好古家の一人である松浦武四郎について、公益財団法人静嘉堂に収蔵される松浦武四郎旧蔵古物資料約900点の調査研究を進め、その具体的な内容と武四郎を周る好古家達との交流の一端も明らかにすることができた。その際、市井に紛れて武四郎と親交を結ぶ全国に散らばる好古家の存在を確認し、「モノ」と人を繋ぐ新たな研究課題として浮上したのである。この点については、研究分担者の三浦泰之による『松浦武四郎研究序説-幕末維新时期における知識人ネットワークの諸相』によって具体的なネットワークの内容が明らかにされており、本研究の推進によってさらなる新知見の蓄積につながることを確信したのである。このような先行研究から、おぼろげながらも全国各地で活動する好古家の姿が浮かび上がってきたのであるが、これらの業績をもってしても、幕末維新时期から続く好古家同志のネットワークに関する研究は充分とは言えないため、本研究では全国的な視点から個別具体的な研究を実施し、その詳細を明らかにする事を一つの柱に据えたのである。

また、江戸後期から続くシーボルト父子からの影響や E.S.モースなど外国人との交流が、近代博物館、近代文化財保護制度に影響を与えた事を具体的に説く先行研究は少なく、博覧会をはじめとした文化財行政、博物館揺籃期に関わりのあったキーパーソンである H.v.シーボルトが好古家との関わりの中でヨーロッパに遺存させている古物への関心も強かった。明治初期にあって日本の好古家との交流の中で「古物会」を主催し、自ら多くの古物を蒐集し、1888年にはオーストリア帝室博物館に5,200点もの日本関係コレクションが寄贈され、今もオーストリア国立工芸美術館などに収蔵されている。また、ドイツのブランデンシュタイン城のシーボルト・アーカイブには、兄 A.V.シーボルトと共に納めた日本関連コレクションが存在し、国立歴史民俗博物館が「日本関連在外資料の調査研究」プロジェクト「シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代（19世紀）日本で収集された資料についての基本的調査研究」により「規準」資料の復元的調査研究および「共有」作業が大々的に進められている最中であって、我々の出来る範囲で本プロジェクトを推進するに至った。すでに平成28年度國學院大學特別推進研究助成の支援

を得て、ライデン民俗博物館において実施した研究成果報告書を刊行する予定であり、一部の研究対象に関しては、既に調査研究を先行させている状況下で研究着手に至った背景がある。

2. 研究の目的

本研究は、これまでの研究で進展していなかった近代博物館揺籃期において、初期文化財行政制度の確立や博物館創設に多大なる影響を及ぼした幕末維新时期から続く好古家とその活動および功績を考究することを目的としている。近代博物館制度、文化財保護制度が明治政府の号令一下、一夜城の如く簡単に創設されたかに見えるが、実際には近代以前の学問体系に裏打ちされた数多の好古家の協力と実践なくしては成し得るものではなかった点を掘り下げる意味で着手した。加えて、開国前後に彼らに影響を与えた外国人の存在があった事について、新たな観点から論及するものである。従来の日本博物館史研究で顧みられなかったこの視点は、近代博物館形成史、文化財行政史のみならず、揺籃期における人文科学そのものの成り立ちを考える上で重要な視点と考えた。

具体的な研究の達成目標は、近世後期の「物産会」から、近代博物館制度・文化財行政の構築に到る歴史的・人的基盤を探る。好古家蒐集古物資料の調査研究と国内における好古家ネットワークの研究を実施する。特に考古学的な観点からシーボルト父子がヨーロッパ各地に遺存させた日本の好古家との関連を示すコレクションに関して具体的な調査研究を実施する。

に関しては特に京都で山本亡羊・榕室が主催して近世後期に毎年のように開催された「読書室物産会」や名古屋で天保期に開催された「尾張名古屋博物会」など、日本全国の主要な都市で開催された近世後期の「物産会」において何が出品されたのか、国立国会図書館や三重県津市石水博物館、名古屋市東山植物園、岩瀬文庫などが所蔵する出品目録から、その全体像を明らかにし、近代初期の博覧会との関係性を具体的に見出す。

に関しては、明治前期の好古家の内、静嘉堂蔵松浦武四郎蒐集古物資料の未整理資料並びに松浦武四郎記念館所蔵古物資料に関する整理作業の推進並びに『静嘉堂文庫蔵 松浦武四郎蒐集古物目録』等に記録される該期の好古家が蒐集した古物の具体的な研究と付随する書簡、箱書き等を中心として幅広く幕末維新时期における好古家同志のネットワークの詳細を明らかにする。

ヨーロッパにおける日本学 (Japanologie, Japanology) の観点から、日本研究者として P. f. v. シーボルト、H. v. シーボルト父子をとらえる。日本学は、文献学からスタートした学問であるため、「モノ」そのものの分析は不十分であることから考古学、民俗(族)学の観点で可能な限りヨーロッパに伝存する好古家との関わりを伝える具体的な「モノ」のを調査研究する事を目的とした。

3. 研究の方法

研究の柱とした近世後半の「物産会」関係研究では、所蔵機関の出品目録から、それぞれ「物産会」への出品者の身分・職業・略歴などを総覧し、「物産会」出品者の全体像を詳らかにする。

加えて出品者相互のネットワークを明かにする。具体的には石水博物館所蔵資料(山本亡羊・榕室主催「読書室物産会」他)の調査や国立国会図書館所蔵資料(「尾張名古屋物産会」他)の調査『尾張名古屋博物館目録』一『尾張名古屋博物館目録』二『尾張名古屋博物館目録』三『尾張名古屋博物館目録』四『尾張名古屋博物館目録』五『文久壬戌読書室物産会品目』『明治辛未織田氏物産会目録』等の「物産会」目録内容に関して調査研究を実施する。好古家蒐集古物資料の調査研究と国内における好古家ネットワーク研究では、松浦武四郎蒐集古物の補完調査を実施し、蒐集品の実態を明らかにしたうえで古物の流通と入手のプロセスを検討し、好古家たちのネットワークを明かにする。具体的には、静嘉堂文庫・松浦武四郎記念館その他における未調査の松浦武四郎関連古物の資料化と調査研究や幕末維新期の市井の好古家についての網羅的な研究を行う。さらに町田久成など中央との関係性が強い柏木貨一郎や根岸武香に関して詳細な人物誌としての研究を行なう予定である。シーボルト父子がヨーロッパに残した日本考古学コレクション調に関しては、国内調査に加えヨーロッパの博物館に収蔵される資料調査を実施し、具体的な記録と評価を行い、既に先行研究で調査したP.f.v.シーボルト関連古物資料の研究報告の刊行を行い、さらにH.v.シーボルト関連古物資料の調査研究として、ヨーロッパの博物館において資料の写真撮影、熟覧、関連アーカイブの確認等を実施し調査成果は、『調査報告』として公表する等を具体的な方法として掲げた。

4. 研究成果

本研究の核となる3つの中心的研究の成果は以下のとおりである。「物産会」研究プロジェクトでは、分担研究者の三浦泰之を中心に主に文献調査を実施し、その成果については「近世後期の尾張名古屋物産会について - 近代日本の「博物館」前史の一断面」として発表した(『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究』)。好古家蒐集古物資料の調査研究プロジェクトでは、静嘉堂文庫や岸武香関係資料調査等を実施し、その成果を報告書に発表した。前者では、連携研究者の川村佳男と共に松浦武四郎蒐集の中国青銅器コレクションの調査研究を実施し、詳細な研究報告書をまとめ完成しているが、刊行は来年度に持ち越した(『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究』〔予定〕)。また、武蔵国の好古家根岸武香蒐集古物資料に関しては、研究協力者の新井端を中心に研究が進展しており、本研究終了後も引き続き継続する予定となっている(『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究』〔予定〕)。「シーボルト父子蒐集古物調査研究プロジェクト」では、平成28(2016)年に調査したライデン国立民族学博物館所蔵のF.f.v.シーボルト蒐集日本考古学資料ならびに伝高野長英筆『古山稜之図』の調査研究報告を公表した(『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究』)。平成29(2017)年に調査した大英博物館収蔵のH.v.シーボルト蒐集日本考古関連資料に関しては、調査成果を報告書として刊行した(『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究』)。令

和元（2019）年に11月には、ドイツに所在するイエナ大学東洋貨幣陳列室に収蔵されているH.v.シーボルトがザクセン＝ヴァイマル＝アイゼナハ大公カール・アレクサンダーに寄贈した日本、中国の貨幣コレクション約1,000点の調査を実施し、文献資料と共に具体的な学術的価値を確認することができた。その成果については、本年度実施する予定である（『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究』〔予定〕）。

これらの調査成果の公表の他に、平成30（2018）年松浦武四郎生誕200年の記念展として開催された北海道博物館、三重県総合博物館共催の特別展「幕末維新を生きた旅の巨人松浦武四郎」展のイベントとして三重県生涯学習センターにおいて「松浦武四郎研究の最前線2018」を開催し、その成果報告を刊行した（『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究』）。また、最終年度に予定していたシンポジウム「幕末維新期の好古家とネットワーク」は、新型コロナウイルスによる自粛要請を受け、開催を見合わせたが当日発表予定の成果については公表している（『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究』）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 内川隆志	4. 巻
2. 論文標題 玩物喪志にあらず 好古家松浦武四郎の古物蒐集	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 3 - 11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻
2. 論文標題 好古家武四郎のネットワークと人物像	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 12 - 19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本命	4. 巻
2. 論文標題 多気志楼、古銭も愛す	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 20 - 24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 徳田誠志	4. 巻
2. 論文標題 武四郎が蒐めた「古き」モノ-好古から考古へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 25 - 35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 長谷洋一	4. 巻
2. 論文標題 松浦武四郎コレクションからみた「武四郎涅槃図」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 36 - 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堅田智子	4. 巻
2. 論文標題 シーボルト兄弟の明治蝦夷見聞 日本人アイヌ起源説と蝦夷植民地化計画をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻 第65号
2. 論文標題 松浦武四郎研究の現状と課題 新たなる武四郎像の構築に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北海学園大学人文論集	6. 最初と最後の頁 8-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻 第75号
2. 論文標題 松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領収証類について(6) 安政5年(1858)分(2)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 松浦武四郎研究会会誌	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻 552
2. 論文標題 「北海道」の命名と「北海道国郡図」の出版（特集「松浦武四郎の視点と北海道」）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地図中心	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻 273
2. 論文標題 巡回展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 見る、集める、伝える 」に寄せて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 労働文化	6. 最初と最後の頁 33-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮崎克則	4. 巻
2. 論文標題 P.F.v. シーボルト『NIPPON』の出版と図版の作成	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 5 - 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内川隆志	4. 巻
2. 論文標題 P.F.v. シーボルトによる石器蒐集の背景	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 9 - 12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 イローナ・パウシュ	4. 巻
2. 論文標題 P.F.v. シーボルトによる日本考古遺物の蒐集について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 13 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 イローナ・パウシュ	4. 巻
2. 論文標題 P.F.v. シーボルトコレクションの玉類について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 34 - 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内川隆志・大工原豊	4. 巻
2. 論文標題 国立ライデン民族博物館収蔵P.F.v. シーボルト蒐集の石器・玉	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 18 - 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 徳田誠志	4. 巻
2. 論文標題 P.F.v. シーボルトが持ち帰った『子持勾玉』について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 36 - 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 徳田誠志	4. 巻
2. 論文標題 ライデン国立民族学博物館所蔵『古山陵之図』の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 43 - 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻 74
2. 論文標題 「松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領収証類について(5) 安政五年(一八五八)分(1)」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『松浦武四郎研究会会誌』	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻 73
2. 論文標題 「松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領収証類について(4) 安政四年(一八五七)分(3)」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『松浦武四郎研究会会誌』	6. 最初と最後の頁 8-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻 73
2. 論文標題 「北海翁著 梅嵯峨誌」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『松浦武四郎研究会会誌』	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内川隆志	4. 巻
2. 論文標題 好古家柏木貨一郎の事績	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 3-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻
2. 論文標題 近世後期の尾張名古屋博物館について - 近代日本の「博物館」前史の一断面 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 30 - 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷洋一	4. 巻
2. 論文標題 好古家の図譜・図解 - 古物を写す -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 59 - 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 徳田誠志	4. 巻
2. 論文標題 『尚古写生』と根岸武香の所蔵品について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 69 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鎌形慎太郎	4. 巻
2. 論文標題 古銭蒐集をめぐる明治期好古家の様相 - 根岸武香の蒐集とその交友 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 81 - 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内川隆志・サイモンケーナ - ・伊藤大祐・堅田智子	4. 巻
2. 論文標題 大英博物館所蔵のHv.シーボルト蒐集日本考古資料について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究	6. 最初と最後の頁 107 - 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 内川隆志
2. 発表標題 好古家松浦武四郎の古物蒐集
3. 学会等名 北海道博物館フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内川隆志
2. 発表標題 玩物喪志にあらず松浦武四郎の古物蒐集
3. 学会等名 松浦武四郎研究の最前線 三重県生涯学習センター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 好古家武四郎のネットワークと人物像
3. 学会等名 松浦武四郎研究の最前線 三重県生涯学習センター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 松浦武四郎の生涯と愛別
3. 学会等名 北海道命名150年記念講座 愛別町教育委員会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 北海道150年事業のキーパーソン、松浦武四郎の生涯
3. 学会等名 北海道私立中学高等学校保護者会連合会「講演会」 北海道私立中学高等学校保護者会連合会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 ここがすごいぞ！ 北海道博物館特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」
3. 学会等名 北海学園大学×北海道博物館 公開セミナー 北海学園大学開発研究所
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 松浦武四郎の歩いた小平町
3. 学会等名 平成30年度おびらふるさと塾 浜頓別町教育委員会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 松浦武四郎の蝦夷地探査と北海道の山道
3. 学会等名 北海道命名150年記念 北海道山道シンポジウム2018 北海道留萌振興局
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 北海道150年事業のキーパーソン、幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎の生涯
3. 学会等名 平成30年度いわみざわ市民大学 岩見沢市教育委員会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 松浦武四郎から学ぶこと 郷土史の視点
3. 学会等名 遠軽町埋蔵文化財センター第2回企画展記念シンポジウム「郷土史の保存と歴史観光への活用に向けて」えんがるの宝を守り、未来につなげるプロジェクト実行委員会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 松浦武四郎と書画
3. 学会等名 北海道150年記念展「松浦武四郎と幕末・明治 北海道ゆかりの人の書」展ギャラリートーク小原道成書道美術館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 北海道150年事業のキーパーソン・松浦武四郎の生涯とオホーツク
3. 学会等名 北海道150年記念フォーラム「オホーツクの歩みと未来」北海道オホーツク総合振興局
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 シンポジウム パネリスト
3. 学会等名 松浦武四郎生誕二百年記念シンポジウム「一畳敷の世界を探求する」国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 松浦武四郎の生涯をたどる（前編/後編）
3. 学会等名 平成30年度根室市民大学講座 根室市総合文化会館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 松浦武四郎がみた宗谷・樺太 その生涯を中心に
3. 学会等名 稚内市樺太記念館開館記念講座～その2～ 平成30年度稚内学「古代～近世の宗谷・樺太」稚内市教育委員会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 鼎談バネリスト
3. 学会等名 幕末維新を三重から語る武四郎鼎談 三重県総合博物館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 松浦武四郎と新冠
3. 学会等名 新冠町郷土資料館事業 ふるさと再発見講座 北海道150年 新冠町教育委員会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 松浦武四郎と北海道
3. 学会等名 札幌市中央図書館講演会 札幌市中央図書館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 北海道150年事業のキーパーソン、“幕末維新を生きた旅の巨人”松浦武四郎の生涯
3. 学会等名 平成30年度ナカシベツ大学 中標津町総合文化会館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 北海道150年事業のキーパーソン、松浦武四郎の生涯 なぜ、いま、松浦武四郎が注目されているのか？
3. 学会等名 金融広報アドバイザー研修会 北海道金融広報委員会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 北海道150年事業のキーパーソン、幕末維新を生きた旅の巨人・松浦武四郎の生涯
3. 学会等名 北海道新聞釧根政経文化懇話会例会 北海道新聞釧路支社
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 武四郎研究の今
3. 学会等名 特別展開連講演会 北海道立帯広美術館
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 「松浦武四郎研究の現状と課題 新たなる武四郎像の構築に向けて」
3. 学会等名 北海学園大学人文学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 「幕末の志士・松浦武四郎と伊達」
3. 学会等名 伊達郷土史研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 「"北海道の名付け親"松浦武四郎の生涯」
3. 学会等名 北海道新聞社（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 「北海道の名付け親、松浦武四郎に出会う」
3. 学会等名 北海道・札幌市政策研究みらい会議（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 「"北海道の名付け親"松浦武四郎の生涯」
3. 学会等名 北海道新聞社（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本命・三浦泰之
2. 発表標題 「史料から読み取る、武四郎の人物像」
3. 学会等名 士別市教育委員会、テッシ・オ・ベツ賑わい創出協議会主催（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 三浦泰之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ちくま書房	5. 総ページ数 397
3. 書名 明治史講義【人物編】	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>好古家と近代博物館の形成 http://hcra.sakura.ne.jp/hvsiebold/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三浦 泰之 (Miura Yasuyuki) (50300843)	北海道博物館・研究部・学芸員 (80101)	
研究分担者	長谷 洋一 (Hase Youichi) (60388410)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究協力者	新井 端 (Arai Hajime)		
研究協力者	伊藤 大祐 (Ito Daisuke)		
研究協力者	宇野 淳子 (Uno Junko)		
研究協力者	大塚 和義 (Otsuka Kazuyoshi)		
研究協力者	堅田 智子 (Katada Satoko)		
研究協力者	鎌形 慎太郎 (Kamagata Shinntaro)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	阪本 是丸 (Sakamoto Koremaru)		
研究協力者	関口 忠志 (Sekiguti Tadashi)		
研究協力者	大工原 豊 (Daikuhara Yutaka)		
研究協力者	徳田 誠志 (Tokuda Masashi)		
研究協力者	成澤 麻子 (Narisawa Asako)		
研究協力者	根岸 友憲 (Negishi Tomonori)		
研究協力者	深澤 太郎 (Fukasawa Taro)		
研究協力者	山本 命 (Yamamoto Mei)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山本 哲也 (Yamamoto Tetsuya)		
研究協力者	米崎 清実 (Yonezaki Kiyomi)		
研究協力者	イローナ バウシュ (Ilona Bausch)		
研究協力者	ダン コック (Daan Kok)		
研究協力者	マティー フォラー (Matthi Forrer)		
連携研究者	宮崎 克則 (Miyazaki Katsunori) (80219758)	西南学院大学・国際文化学部・教授 (37105)	
連携研究者	川村 佳男 (Kawamura Yoshio) (80419887)	九州国立博物館・その他部局等・研究員 (87106)	